

5年生の社会科では、農業・水産業・工業など、様々な日本の産業について学習しました。そして、人々のためにたくさんの工夫や努力をしながら仕事をする人たちの思いや願いを知りました。そこで、鹿嶋市の産業・文化もたくさんの人に知ってもらいたいと思い鹿嶋市の産業・文化について調べることにしました。

農業

鹿嶋市では、キャベツ、ピーマン、メロンなどの栽培がさかんです。

特に、鹿嶋市の特産品「汐菜キャベツ」は温暖な気候のもとで育ち、甘みが多いのが特徴で、取引市場などからの評価が高く、認知度も高まっています。ミネラルが豊富な鹿島灘の海水をかけて育てた、甘みたっぷりのキャベツです。苦みが少なく、甘みが多いのが特徴で、ビタミンや食物繊維などが多く含まれています。

また、温暖な気候で育った鹿嶋のピーマンは、生のままでも焼いてもおいしく食べることができます。ビタミン、食物繊維、鉄分など栄養も豊富です。

さらに、鹿嶋の大地では、太陽をいっぱい吸い込んだ糖度の高いメロンも栽培しています。



工業

鹿嶋市と神栖市にまたがる鹿島港は、日本を代表する工業生産拠点となっている鹿島臨海工業地帯があり、原材料や製品の海上輸送基地として重要な役割を担っています。

その中にある、新日鐵住金鹿島製鉄所は、自動車・家電向けの薄板を中心に、厚板、鋼管、形鋼などを製造しています。2基の高炉を有する鉄鋼一貫製鉄所で、高付加価値製品を造ると共に世界トップレベルの生産性を誇ります。

三笠小学校の5年生も新日鐵住金鹿島製鉄所を見学させていただきました。鹿島港の中央港路は、幅600メートル、深さ19メートルもあり、大型船の出入りに対応していること、約1万2千人もの人が働いていることなどを知りました。また、熱延工場内の見学では、鋼の塊を延ばす様子を実際に見ることができました。鋼が加工される迫力と、鋼の熱を直に感じ、働く人の大変さを学びました。



まとめ

鹿嶋市は、農業・水産業・工業がとてもさかんな地域です。また、地域に密着した鹿島アントラーズが市民から愛されており、とても活気にあふれた街でもあります。魅力あふれる鹿嶋市にぜひ足を運んで下さい。

水産業

鹿島漁港区に水揚げされる魚介類は、底ひき網漁や船びき網漁・刺網漁・釣り漁などで漁獲され、季節の旬の魚介類が水揚げされています。

鹿島灘沖で獲れる地ダコは、古くから「鹿島タコ」と呼ばれ、珍重されています。鹿島灘の荒波にもまれて成長しているために、大変肉厚で歯ごたえと甘みのあるのが特徴です。鹿島タコは、地元の人々には冬期の食卓には欠かせない食材で、お歳暮等のご贈答品としても大変喜ばれています。また、正月用食材として需要が多く、高値で取引されている自慢の海産物です。

また、鹿嶋市には栽培漁業センターがあり、稚魚等を放流し、育てる漁業を行っています。ヒラメ、スズキ、アワビ、鹿島灘はまぐりの栽培を行っており、センター内では茨城県の漁業の姿をクイズやパネルで分かりやすく紹介しています。



スポーツ

今年は、10月1日に初の試みとなる鹿嶋市立小学校全校応援事業が行われ市内の小学生がみんな鹿島アントラーズを応援しました。

○ 鹿島アントラーズの紹介

鹿島アントラーズは、1992年のJリーグ発足時に加盟しました。Jリーグ優勝8回、ヤマザキナビスコ杯優勝6回、天皇杯優勝5回と全クラブチーム中最多の優勝回数を誇っています。

ホームスタジアムの「カシマサッカースタジアム」は日本初の屋根付きサッカー専用スタジアムとして1992年に完成しました。2002年のFIFAワールドカップ日韓大会の会場の1つになり、1万5千人から4万人収容のスタジアムへ生まれ変わりました。

今年開催されたFIFAクラブワールドカップジャパン2016では、開催国代表として出場しました。南米代表などを破り、決勝ではヨーロッパ代表に惜敗したものの、アジア初の準優勝になりました。

